

ASK ニュース

2016年2月15日(月)
担当：MS事業部 三宮

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-21 損保ジャパン名古屋ビル1F
ASK 税理士法人 TEL 052-971-1122 FAX 052-971-4488

日銀のマイナス金利 の影響

はじめに

平成28年1月29日日銀の黒田総裁は、日本では異例のマイナス金利の導入を発表しました。

このマイナス金利導入の発表により当初は、日銀のもくろみ通り円安・株高の方向に市場はふれました。しかし、2月12日現在株価は大幅に値下がりをし、円高も加速しています。

そして、国内では初めての長期金利がマイナスとなる異常事態が起こっています。

それでは、なぜこのようなことが起こってしまったのでしょうか。

マイナス金利

民間の金融機関は、日銀にお金を預けていると0.1%の金利を貰っていました。民間の金融機関は、企業にお金を貸し付けてもさほど利息は取れない上に貸し倒れのリスクを抱えるため市場に貸し出すことをためらっていました。しかし、お金を自分のところに余らせておくわけにもいかなないので日銀にお金を預けてノーリスクで0.1%の利息を確保していました。

この金余りを何とか解消しようと日銀の黒田総裁は、平成28年2月16日から日銀に貸し付けている当座預金の一部に対して利率をマイナス0.1%に下げることと決定しました。

要は、民間の金融機関が日銀にお金を預けているとペナルティーとして手数料を取るというものです。これにより、民間市場に貸し出したり、投資を促すことにより、日本経済活性化やデフレ脱却につなげようという狙いがありました。

異例の長期金利マイナス

マイナス金利の導入発表当初は、この狙いどおり円安・株高に動いたのですが、この2週間で世界経済の先行きが不安定なことも相まって円高・株安に大きく動きました。

さらに、10年の国債の利回りが国内で初のマイナスに低下をするという異常事態にまでなっていました。

なぜこのようなことになってしまうかという、簡単に言えば、金融機関の判断として、マイナス0.01%の国債を買う方が、マイナス0.1%の日銀の当座預金よりはマシだという理屈です。

長期金利がマイナスということは、利幅が少ない長期国債に買い手が殺到しているという意味です。

おわりに

この報道から私は憤りを感じます。本当に日本の金融機関は三流以下だと再認識しました。お金を貸すのが金融機関の使命であるにも関わらずそれを放棄しているのですから。

しかし、違う見方をすれば、今の日本に投資できる魅力的な部分がないという表れなのかもしれません。